

おもてなし向上へ

協議会では、観光客に対するおもてなしの向上にも取り組んでいます。ロケ地勉強会やまめぶ作りの講習、市内事業所と一緒に新たなお土産品の開発などを行い、地域経済への「あまちゃん」効果の波及を図っています。

海外へのPR

「あまちゃん」は日本以外の国でも放送されています。特に台湾やフィリピンでは人気が高く、現地で「GMT47」を模倣したアイドルグループが結成されるほどです。



台湾の台北駅でのPR活動

平成26・27年度には台湾、平成28年度にはフィリピン

全国ふるさと甲子園

ロケ地とご当地グルメで「行きたいまちNo.1」を決める「全国ふるさと甲子園」(同実行委員会主催)に参加。約3000人が来場し、全国55の地域・団体の中から投票。久慈市はあまちゃんまめぶ汁を全面に押し出しPRを行い、平成29年度開催の第3回大会で見事「行きたいまち第10位」に入賞しました。



全国ふるさと甲子園

あまちゃん放送後、全国からのツアーに久慈地域が盛り

で、県やあまちゃんのロケ地の東京都台東区と協力しながらPRを行っています。



あまちゃん列車に興味津々のツアー客

込まれることが増加しています。ピークの平成25年には、全国から数百本のツアーが久慈地域で行われました。本年度においても「三陸鉄道あまちゃん列車ふれあい号」として海女さんガイド、市内まち歩きガイド、まめぶの試食などを盛り込んだツアーが年間約160本催行。約4900人が参加しています。

1月26日に実施したツアーには中部地方から約20人が参加しました。参加者は「あまちゃんで見えた駅が実際に見ることができてうれしい。気温はとても低かったけれど、町や人は温かみを感じました」など久慈地域の魅力を語っていました。

久慈市観光物産協会 会長 インタビュー

「あまちゃん」を大事にするために

あまちゃんがくれたもの

あまちゃんの放送によって、久慈の名前が全国区になりました。それまでは、久慈を説明するには、八戸の南にあつて、宮古の北にあつて...と言わなければ分かってもらえませんでした。今は「あまちゃん」の久慈市」と言えばみんな分かってくれます。また「まめぶ」「琥珀」といった久慈の特産品が作品に使われていたので、それらも有名になったのではないのでしょうか。そして、なにより自分たち

の宝物に気づいたこと、誇り・自信を持たれたこと。これがあまちゃんがくれた一番大事なものです。

放送後の思い出

放送後はメインロケ地の小袖はもちろん、市街地にも人があふれ、宿泊業も土日の稼働が増えました。観光客の増加もとてもうれしかったのですが、ロケの時に撮影隊の人たちが、たくさん町の店を使ってくれたことが、とてもありがたかったです。その人たちが熱い思いで、そこで感

課題と魅力

やはり交通手段が少なかつたこと。臨時のバスもたくさん走っていましたが、ピークのときは乗れなかつた人もたくさんいました。しかし、逆に一般の車を制限したことにより、小袖までの道がより強調され、秘境のように感じ、景色を楽しんでいただけました。こういったプラスにつな

がった面もあると思います。

ロケ誘致に向けて

あまちゃんを大事にするためにも、言い方は悪いかもしれませんが、それを踏み台にして、さらにロケを誘致することが必要だと思います。ただ、余韻があるうちに、ロケ対応の経験を生かして、関係機関に働きかけることが必要。観光団体や民間企業が工夫を



Profile 山田 実希さん (株)地域活性プランニング ロケーションジャパン 編集部長

全国の朝ドラの舞台の中で、放送終了後にテレビへの露出が年々増えているのは、非常に珍しいことです。ロケによる町の盛り上がりも16年間雑誌で追い続けてきましたが、どんな大作が撮られても、注目度は一過性に終わります。久慈市の凄いいところは「一過性にしない」取り組みがあったからではないでしょうか。

ひとつは「あまちゃん」放送終了前から「ドラマが終わった後、どうすればいいのか?」と危機感を持ったメンバーがおもてなし強化に動いたことだと思います。北三陸あまちゃん観光推進協議会のファンを楽しませるための数々の施策は、今では全国の自治体の見本。例えば「どこから来ましたかシール」はマスコミうけだけでなく「効果



どこから来ましたかシール

あまちゃんその先へ

「あまちゃん」で、久慈市に多くの観光客が訪れたことで分かるように、ロケツーリズムは「経済効果」「地域のPR効果」「有名人と会える・地域が映る満足感」など多様な効果があります。

「あまちゃん」は近年の作品では群を抜いて影響力の強い作品と言われています。前述のとおり、観光客入込数はピーク時より減少していますが、今でも多くの観光客が久慈市を訪れています。これは「あまちゃん」が「一時的なブーム」ではなく、ずっと続く文化として定着したことにほかなりません。

地域の受け入れ態勢は、ロケツーリズムには欠かせないものです。市民の皆さんが「あまちゃん」放送時に感じた高揚感をいつまでも忘れずに、久慈市の「宝」としてずっと大切にしていけることが、おもてなしにつながります。まだまだあまちゃんの気持ちで「あまちゃんファン」を「久慈市のファン」につなげていきましょう。



Profile 山本 えり子さん 久慈市観光物産協会 会長 久慈広域観光協議会 会長 北三陸あまちゃん観光推進協議会 副会長